

IP 上の H.323 テレビ会議のための QoS ソリューションの実装

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[H.323](#)

[テレビ会議トラフィックの特性](#)

[キャパシティ計画](#)

[サンプルシナリオ](#)

[コール単位の帯域幅使用量の決定](#)

[H.323 音声](#)

[H.323 ビデオ](#)

[分類](#)

[高度なキューイングメカニズムの選択](#)

[モデル/優先順位付けの方式](#)

[音声とビデオで LLQ を共有するかどうか](#)

[CAC](#)

[トラフィックシェーピング](#)

[H.323 端末とのインターワーキング](#)

[設定例](#)

[関連情報](#)

はじめに

H.323 は、IP ネットワークでのマルチメディア会議の規格として世界的に受け入れられています。このドキュメントでは、比較的低速なリンクを使用する企業 WAN を介した H.323 テレビ会議に、Quality of Service (QoS) を導入するためのツールについて説明します。

前提条件

要件

このドキュメントの読者は次のトピックについて理解する必要があります。

- H.323 に準拠したシステムのコンポーネント。コンポーネントには、端末やゲートウェイ、

ゲートキーパー、Multipoint Controller (MC; マルチポイント コントローラ)、Multipoint Pprocessor (MP; マルチポイント プロセッサ)、Multipoint Control Unit (MCU; マルチポイント コントロール ユニット) などがありますが、これらに限定されるわけではありません。[詳細については、『White Paper : Cisco ネットワークにおける H.323 アプリケーションの導入』](#)を参照してください。

- シスコの H.323 テレビ会議のソリューションに関する知識。MCU やゲートウェイのほか、Multimedia Conference Manager (MCM) のゲートキーパーやプロキシなどがあります。詳細については、「[関連情報](#)」を参照してください。